

アイスホッケー きょう競技開始

成年 大学生が半数超



成年の青森県代表チーム



少年の青森県代表チーム



第20回国民スポーツ大会「青のゆめきあおもち国スポ」冬季大会で、八戸市を主会場としてから始まるアイスホッケー競技に、青森県の成年と少年チームが出場する。両チームとも優勝からは遠ざかっており、成年は2015年の第10回大会（盛岡市）、少年は1994年の第3回大会（盛岡市）を最後に県民に立てていない。選手たちは地元での優勝を1と闘争を絶やしていない。（1日、10日連日記者）

岡山県で行われた前回大会、上を大学生が占める割合が、昨年より半減した。昨年の日本学生氷上競技

選手権（インカレ）アイスホッケーで、インカレで優勝を挙げた。中大の樋口雅二（大）は、「結果はともいわず、出た高崎や成成（成城）や中野のほかに、勝算能力が高い東洋大の久保大輔（大）や、山出ら太（山出）や、これを坂本選手が下支えする体制で臨む。成年は、武田裕大（光華）は、学生と社会人がそれぞれ自分の役割を果たす

少年 スピードに自信

よう、考えてプレーができて、スピードに自信がある」と任じがりの良さをアピール。ゴールを奪取しようという意気込みを、「一丸、少年はこの数年、決りて進みながら優勝にはあと二歩開いていない。今回は、工大、八戸工、八学光星の三つの高校で編成、スピードに自信を持って選手が顔をそろえており、合同練習も成年との試合を通じてチーム力を高めてきた。

成年、少年地元Vへ闘志

少年で主将を務める鈴木峻大（工大一高）は、「インターハイで敗れた悔いを主体とする津川が、初戦の準々決勝で立ち上がったとみており、同じ相手には負けられない。リベンジを果たしたい」と闘志を、同時に「地元で優勝し、とれる人たちに、一勝でも多く届けられるように頑張りたい」と意気込みを述べた。開幕は11日、八戸市内で結団式を、選手や監督ら約40人が士気を高めた。（千葉孝典、大西桂介）